



## 祐介の目

No.110

大田祐介（福山市議会議員）

診した際にリアルタイムで保険証の資格確認ができる。従来多額の事務費用がかかっていた保険証の間違い等のレセプト（診療報酬明細書）点検が相当効率化されるだろう。さらに来年

## マイナンバーカード

コロナ特別定額給付金（10万円）のマイナンバーカードによるオンライン申請時の混乱は記憶に新しい。各自治体ではオンライン申請で上がったきた情報の住所氏名から住民基本台帳を探して内容を手作業で突合するという煩雑な作業を強いられた。そもそもカードではなく、マイナンバーそのもので申請できれば良かったと思うのだが。大失敗の住基カードに続きカードにこだわった国の失策と言える。

しかし最近マイナポイントのお陰でマイナンバーカードの申請・交付件数が伸びているようだ。やはり何か動機づけが無いとカードの普及は難しいということだろう。さらにカードと保険証の紐づけが開始された。来年3月からマイナンバーカードと保険証となるので、ぜひ多くの市民に紐づけ登録していただくよう、私も議会で訴えている。

その理由は、医療機関に受

10月からはマイナンバーカード保険証を用いて過去の薬剤情報や特定健診情報の閲覧ができるようになる。医療費も確認できるので、多額の費用をかけて郵送していた「医療費通知」の必要性も低下するし、確定申告の医療費控除にも利用できるようになる。何より自身の過去の医療情報が分かることで、より適切な医療サービスの提供と健康増進に繋がるだろう。

じつは福山市発でもっと進んだ医療情報提供サービスがすでに始まっている。福山市の新たな実証実験「まるごと実験都市」の取り組みとして大田記念病院と㈱NOBORIが医療情報をスマートフォンで見ることができるようNOBORIを開発した。「医療、ジブンゴト化宣言」というフレーズがキーワードになっており、血液検査やCT・MRI等の画像データまで閲覧でき、自分自身のカルテを確認できるも同然だ。皆様もぜひインスタツールして役立てて欲しい。